

図書館forum

福井大学附属図書館の課題…………… 中川 英之 1

医学図書館の増築に思う…………… 赤木 好男 3

■福井大学附属図書館所蔵の古典籍(4)

明治初期の教育稀覯書、小幡篤次郎『天変地異』

…………… 膽吹 覚 4

■私の推薦書

「文学は実学だ」－H氏賞、福井詩壇の人々、少子高齢化問題など－

…………… 越野 格 7

生命科学の専門書…………… 定 清直 10

失敗だらけの日本？…………… 橋本 明弘 12

二つの機関リポジトリ…………… 学術情報課企画管理係 13

新しい医学図書館 増改築工事が終わり、リニューアルします 15

総合図書館ブックハンティング

－学生による学生のための図書選定－

17

福井大学附属図書館の課題

附属図書館長 中 川 英 之

なかがわ・ひでゆき

総合図書館の改修・増築が竣工してから早くも1年が経過しようとしています。この間、1階エリアに整備された展示ホールでは、山川登美子展や日本一短い手紙・カマボコ板絵のコラボ展に加え、本館の所蔵する貴重資料を基にした様々な展示が、市民にも開放された文化企画として行われてきました。また、同じ1階エリアに設置されたラウンジ、マルチメディアブースやグループ学習室は学生の集う場として、また、学生の自主学習の場としての役割を果たしてきております。2,3階の閲覧室は快適で静かな学習環境を提供し、増築された書庫は収納スペースの狭隘問題を解決するものとなっております。一方、医学図書館に関しても、改修・増築が進められており今年度中に竣工する予定になっております。完成の暁には、医学、看護学を学ぶ学生にとっての学習環境が格段に改善されます。

こうした環境整備は、福井大学附属図書館がその基本コンセプトとする①次世代図書館、②集う図書館、③継承する図書館の実現を目指して行われてきたものです。しかし、これらのコンセプトは図書館改修工事を進めるにあたって、いわば「にわか仕込み」に立てられてきたものであり、その中身を真剣に吟味し、附属図書館のビジョンに仕立て直して行く必要があります。「次世代」とは何か。電子化がその一端をなすことは間違いのないにしてもそれだけでは空疎なものになります。「集う」とは、単に集まるということではなく、もっと目的意識のよ

うなものを込める必要はないのか。「継承する」とは、全てを引き継ぐことではなく、大学図書館としてのビジョンに基づいた「仕分け」概念があるはずです。即ち、電子化、集い、継承ということは、余りにも「当たり前」のことであり、これだけでは無味の誹りを免れないであろう。これらを克服し、ビジョンを確立し、附属図書館は何をなすべきか、というミッションに結びつけていく必要があります。

以下に、大学構成員の皆さんにも是非考えて頂きたい大学図書館に関する喫緊の2課題について簡単に触れておきます。

1. 電子ジャーナル、データー・ベースの課題

電子ジャーナルの普及により、研究者は、空間的、時間的並びに物理的制約から解放されて学術情報にアクセス出来るようになりました。しかし、購読方法が学術雑誌等を冊子購読していた時とは大きく異なっており、出版社が刊行する電子ジャーナルの全タイトルまたはサブジェクト単位でのパッケージ購入（ビッグ・ディール：Big Deal）が主流になっています。国立大学図書館協会では、契約モデルや利用条件について、主な出版社との間でコンソーシアム合意を交わしており、価格上昇に一定のブレーキをかけてはいますが、毎年5%程度の値上げ（為替変動の影響により変化する）は避けられない状況にあります。5年先には、現在7千万円の該当経費が9千万円程度になります。

タイトル毎購入に切り替えるということも非現実的です。

例えば、エルゼビアの場合、年間アクセス数は推計 86,626 回ですが、仮にアクセス数の多い順にタイトル別購入をしたとき、本年度価格（Big Deal：約 2,000 タイトル）では、58 タイトル購入（36,807 アクセス）となり、49,819 アクセスの利用が切り捨てられることになります。同じ条件で、シュプリンガーの場合は、現状の約 1,800 タイトル、7,256 アクセスが、10 タイトル、1,456 アクセスになります。従って、本学の学術情報環境が極端に悪化することになります。

ILL（Inter Library Loan）システム利用による個別文献入手の方法もありますが、電子ジャーナルの利便性に慣れた研究者にとって、特殊なケースを除いて ILL 利用は耐え難いであろうと思います。結局、競争的研究資金（間接経費）の還流などを考える以外に出口は見えないように思えます。この件に関しては、データに基づいた再検討が必要であり、図書館ではデータの提示を準備しています。

2. 組織運営の課題

現在の学術情報課（図書館）の職員数は、総合図書館で常勤 9 人、非常勤 11 人、嘱託 2 人、医学図書館では常勤 4 人、非常勤 2 人となっています。合理化や組織の改廃を進めて図書館サービスの向上に努めてきていますが、職員の絶対数の不足に加えて、年齢層の不均衡もあり、専門職としての傾向が強い図書館業務を継承していくのは困難な状況になってきています。業務内容の見直しによる組織運営の更なる効率化を進めつつも、長期的視点からの職員構成・配

置等を再検討していく必要があります。尚、本年 4 月からは、附属図書館長を理事が兼任する体制から、教員から選任する体制に移ります。大学には大学図書館の設置が義務づけられており、大学における教育・研究の要としての位置づけを考えると、この移行は良い方向であると思っています。学術情報を統括するのは文化度の高い教員であるべきで、経営とは距離感を置いた方が良くも思っています。

昨年 12 月に開催された官民競争入札等監理委員会において、「公共サービスの見直し」の指示が内閣府から示され、国立大学法人の事務が見直しの対象となっており、そこでは図書館業務が一つの例として掲げられています。選書・発注、受け入れ、目録、装備、索引、利用者対応、配架、閲覧環境、貸出、複写、蔵書、製本、資料保全、統計資料などはほぼ全ての図書館業務について外部委託状況が調査され、委託していない業務については「対外的に合理的な説明が可能な理由」を明記することになっています。行政刷新の荒波がここまで来ていることに十分留意し、外部委託できないことの「合理的な説明」を、虚心に、検討しておく必要があります。こうした流れは、図書館業務や事務業務に留まらず、大学運営そのものの民間委託、即ち国立大学の民営化論に波及する可能性を秘めており、理論武装を固めておかないと国の教育研究の将来にとって危ういことになりかねないと危惧しています。

その他、学生参加の課題、機関リポジトリ充実の課題、図書の電子化の課題、学生教育への積極参加の課題、広報活動や地域連携の課題など、大学図書館には山積する課題の解決へ向けた終わりのない努力が要請されています。

医学図書館の増築に思う

医学図書館長 赤木 好男

あかぎ・よしお

医学図書館（松岡キャンパス）の増築工事が進められており、本年3月末には完成の予定です。皆様からのご希望により工事の騒音やホコリなどの劣悪な環境の中でも開館しながら、利用者の方も図書館から離れずに勉強しながら工事が進んでまいりました。4月からは閲覧座席を大幅に増加するとともに、パソコンが自由に使えるフリーアクセス床の閲覧室、講習会等が行える研修メディアルーム、福井県の医学資料を収容する医学資料室の設置など、大幅な利用環境の改善及び機能向上が図られます。

旧来の医学図書館は昭和57年3月に竣工しましたが、その後大学院の設置や、看護学科の設置、平成21年度からはさらに10名の医学科定員増などがあり、当時と比べて非常に手狭となっておりました。これでようやく閲覧スペース（学習の場）については一息つける状況となるとともに、急速に進む情報化の流れに対応できる設備も整い、今後の活用が待ち望まれるところです。

最近では、一人用の机に座り仲間が真剣に勉強に打ち込む雰囲気の中で、医師・看護師国家試験や定期試験などの勉強をする学生さんたちが多く、座席の取り合いに近い混雑状態でしたが、増築により大幅に緩和されるものと推察しております。

今後も「学習の場」を提供する図書館としての役割を全うするだけでなく、従来の資料収集保管から電子情報の収集提供、さらには新たな動向にも注目しつつより良い図書館になるよう努力しなければと思いを新たにしているところです。

総合図書館の耐震改修・増築（平成21年3月竣工）に引き続き医学図書館の増築も実現して頂きました。ここに至るまでには先生方からのご意見やご希望、学生さんたちからのご希望などを真摯に実現すべくご援助いただきました多くの皆様のご支援がありましたことを深く感謝しております。



【新医学図書館完成予想図】 Pelli Clarke Pelli Architects Japan, Inc. 提供

福井大学附属図書館所蔵の古典籍(4)

明治初期の教育稀覯書、小幡篤次郎『天変地異』

留学生センター准教授 膽 吹 覚

いぶき・さとる

小幡篤次郎（1842～1905）は福沢諭吉を補佐した第1人者でありながら、今日、彼を知る人が少ないことを私は残念に思う。篤次郎の名前は『学問のすゝめ』初編の著者の1人として、その巻頭に諭吉と並んで記されているにもかかわらず、そのことを存外、人は知らない。

篤次郎は江戸末期の天保13年（1842）に豊後中津藩（現在の大分県中津市）の藩士の次男として生まれる。幼少より漢学を学んだ篤次郎は、その学才を認められて、藩校進修館の教員となり、安政5年（1858）からは同館の塾長を勤めた。元治元年（1864）、23歳の時に同郷の先輩にあたる福沢諭吉に勧められて、進修館塾長の職を辞し、江戸に趣いて、諭吉の蘭学塾（後の慶應義塾）に勤務する。そして、その2年後の慶應2年（1866）には、その塾長に任ぜられる。明治4年（1871）には、郷里の中津に中津市学校を設立し、その初代校長に就任する。この中津市学校の設立に際して、中津の人々に向けて篤次郎と諭吉が共著のかたちで著した小冊子が、後に『学問のすゝめ』初編となるのである。篤次郎はその後も諭吉をよく補佐し、慶應義塾の発展に貢献し、併せて郷里の中津の学校教育にも尽力した。明治38年（1905）逝去。享年64歳。著訳書に『英文熟語集』、『天変地異』、『博物新編補遺』、『英氏経済論』などがある。

本稿で紹介する『天変地異』は、西洋の諸種の科学書を参考にして、天変地異について科学的な説明を施した啓蒙書である。

『天変地異』の初版は明治元年（1868）初秋であ

る。明治元年は篤次郎27歳の年にあたる。当時の篤次郎は、慶應義塾の塾長であった。慶應義塾は安政5年（1858）10月に江戸の豊後中津藩中屋敷内に開設された蘭学塾をその起源とするが、慶應4年（1868）4月に、時の元号をとって慶應義塾と改称した。慶應4年はその9月に明治元年と改元される。本書はその後、明治5年（1872）の文部省布達番外「小学教則」において、下等小学第5級（現在の小学校2年生に相当）の教科書に指定されたことによって広く国内に流布する。更に明治33年（1900）



表紙



表紙見返しと第1丁表

には台湾日々新報社からその中国語訳が刊行されている。

このように『天変地異』は明治初期に小学校の教科書として採用されているから、伝存のものが相当あってよいはずなのに、大学図書館では、本学以外には筑波大学、早稲田大学、静岡大学、香川大学など数校にしか所蔵されていないようである。明治期には教科書として広まった『天変地異』であるが、現在では稀観書（滅多に見られない本）となってしまったようである。明治初期に刊行された教育書の中には『天変地異』と同様に現在では稀観書となってしまったものが少なくない。そうした状況があって、昭和57年（1982）に『明治初期教育稀観書集成』（雄松堂書店）が刊行された。『天変地異』はその第3輯にその明治元年版の複製が収録されている。

本学所蔵の『天変地異』（貴重書室配架, No.

52244）は木版和綴の1冊本。中本（縦18cm×横12cm）。外題内題ともに「天変地異」。序文2丁、凡例2丁、目録1丁、本文27丁の計30丁。その目録によると、本書は「^{かみなりよけ}雷避の柱の事」をはじめとして、「地震の事」、「^{にじ}彗星の事」、「^{ここのつひ}虹霓の事」、「九日同時に^{いで}出たる事」、「^{みつのつき}三月並び照す事」、「流星並に火の玉の事」、「^{いんか}陰火の事」の全8項目から成る。蔵書印は本学図書館のもののみ。保存状態はいささか草臥れているが、書入れ・虫損ともになく、良好である。

本書の表紙見返しを見ると、西洋風の城郭が描かれ、その上空には暗雲が立ち込め、雷鳴が轟いている。城郭の頂には避雷針も見える。すなわち、この絵は本書巻頭を飾る「^{かみなりよけ}雷避の柱の事」に関する挿絵である。本書の内容紹介を兼ねて「^{かみなりよけ}雷避の柱の事」の冒頭の一節を以下に引用する。

おおむかし ものしり
 太古の識者なき時代には、雷を悪しき神の叫び
 と唱へ人々恐怖きしものなるが、「ふらんきり
 ん」と云う人、世に出て後は、斯る惑を説くも
 のもなく、此災を避る道具も出来し、人の幸い
 限りなし。「ふらんきりん」は垂米利加合衆国
 の人にて、世に名高き英雄なるが、年少の時よ
 り諸学に志を潜め、殊に越歴の学問に秀て奥義
 を極めしより、電も雷も皆越歴の所作ならんと思
 付き、屹度工夫を廻らし、彼千七百五十二年、
 我延享元年六月に至り、雷雨の起るを待ち紙鳶
 を空中に放ちたるに、雲間の越歴、糸に伝わり、
 種々の試験に上せけるに、聊も尋常の越歴に異
 なることなきを發明せり。欧羅巴の学者も之を
 聞伝へ、又同じく試験したるに全く「ふらんき
 りん」の説に相違なきより、世の説一変し、電
 は越歴の火花にて、雷は陽の越歴と陰の越歴と
 合はんとするとき、脈一つの間二十八万里の
 遠路を馳するゆへ、空の気遽に其行跡の空所を
 塞がんとするより響を発すと云うに極まれり。

上記の如く本文は啓蒙書らしく漢字平仮名交り文
 で、適時ルビが付されている。また、文章も平易で
 簡にして要を得ている。ただし、一般向きの啓蒙書
 ならば兎も角、これが当時の下等小学第5級（現在の
 の小学校2年生に相当）の教科書であったことを考
 えると、この文章はいささか難解ではなかろうか、
 と浅学の私は思ってしまう。しかし、それは当時の
 小学校教育のレベルを知らない者の愚見かもしれな
 い。

さて再び表紙見返しに戻るが、この絵の上部には
 「明治元年戊辰初秋」とある。ゆえに、本書の刊行

年は明治元年（1868）初秋であることが知られる。
 また、挿絵の右下隅に「慶應義塾／蔵版之印」が捺
 されている。この蔵版印を捺す部分は、その印の寸
 法に合わせて白抜きされている。つまり、本書の表
 紙見返しのデザインを考案する段階で、すでにこの
 蔵版印は出来ていたということになる。繰り返しに
 なるが、慶應義塾と改称されたのが明治元年9月で
 あるから、この蔵版印は校名改称とはほぼ同じ時期に
 既に作られたということが知られるのである。

慶應義塾（慶應義塾大学）の出版事業は、明治か
 ら現在まで、日本の私立大学の出版事業の牽引的役
 割を果たしてきた。その出版事業は、明治2年（1869）
 11月に福沢屋諭吉が創設され、その3年後の同5
 年（1872）8月には慶應義塾出版局となり、今日で
 は慶應義塾出版会として多くの名著を刊行し続けて
 いる。「慶應義塾／蔵版之印」は、こうした慶應義
 塾の出版活動の原点を物語る貴重な印記といえよう。
 本書は確かに明治初期に刊行された教育書（啓
 蒙書）の稀覯書であるが、本書に押印された蔵版印
 に着目するならば、日本の高等教育機関の出版事業
 の興啓を物語る典籍としての価値を、そこに見出す
 ことができるのである。

最後に書誌学を離れて、『天変地異』の本文を読
 みたい方のために記しておく。本書初版本は確かに
 稀覯書であるが、明治文化研究会編『明治文化全集』
 第26巻（日本評論社、1993年）にその全文が翻刻
 されて掲載されているので、興味を持たれた方は、
 そちらをご覧くださいのが便利であろう。『明治文
 化全集』は一般の公立図書館でも架蔵されているは
 ずである。

私の推薦書

没前5年特別講義

「文学は実学だ」

ー H 氏賞、福井詩壇の人々、少子高齢化問題などー

附属図書館運営委員

越 野 格

こしの・いたる

去る1月24日、「増永迪男氏福井新聞文化賞記念祝賀会」が、男45名、女45名の参列のもと某ホテルで開かれた。氏のお人柄を反映してか、「今日の日は、さようなら」で別れても、また合コン、再婚活で会えるような雰囲気になった。これまで福井県文化賞など多数の受賞歴のある増永氏は、自ら「創作的山登り」と称する山行をもとにした『夜明けの霧の山』（福井新聞社2007）など、多数の山岳エッセイで知られる。今回の祝賀会の引出物が『春夏秋冬山のぼり』（ナカニシヤ出版2010）。帯の惹句が「喜寿になっても山のぼり」、強健な体に生んでくれたご両親、ご先祖に、感謝、感謝の一冊である。



春夏秋冬山のぼり

というわけで今回の私の「推薦書」は、福井詩壇の力学を垣間見ながら、頂いた詩集等もちりばめて、その近年の活況ぶりを振り返ることにする（以下、敬称略、気配りなし）。

2009年は太宰治、松本清張などの生誕100年に当たり、全国で様々な記念行事が行われた。福井県関連でも、則武三雄の生誕100年、山川登美子の没後100年、いわさきちひろの生誕90年、高浜虚子の没後50年、開高健の没後20年など、多数の企画展が催された。伊藤柏翠も没後10年に当たる。私も没前5年を迎え、毎晩独りだけの酒宴を開

いた。

2009年5月16日、福井新聞社で「第7回北陸現代詩人賞」の受賞式が行われた。大賞は、山本沖子（東京都、小浜市出身）の『鬼灯・りんご・さくら』（書肆青樹社2008）、中島悦子（横浜市、福井市出身）の『マッチ売りの偽書』（思潮社同）。



鬼灯・りんご・さくら マッチ売りの偽書

この賞は2002年、篤志家の基金を元に、北陸三県の詩人を顕彰し、現代詩の発展を図るために創設されたもので、当年度からは三県在住者ばかりでなく、所縁の詩人にも対象を広げた。同賞実行委員長は増永迪男、審査委員は荒川洋治、岡崎純、川上明日夫。

荒川洋治は『水駅』（書紀書林1975）で第26回H氏賞を受賞したのを始めに『忘れられる過去』（みすず書房2003第20回講談社エッセイ賞）『心理』（みすず書房2005第13回萩原朔太郎賞）『文芸時評という感想』（四月社2005第五回小林秀雄賞）など、多彩な著作で文壇を縦横無碍、変幻自在に跋扈（ここでは原義）している。最近も読書に関する批評・エッセイ集『文学の門』（みすず書房

2009) がある。

荒川の講演は、些末な、俗な、或いは豊富な読書歴、学識に裏打ちされた微細な事実から切り込み、本題へと展開する。本題はなくても、そのダラダラ話は、巧みで面白い。

この「北陸現代詩人賞」の講演でも、「文学は実学だ」と言い出した。実学か、と宴会要員として疼く尻を浮かして聞いていた私は、途中でアッとした。まだ生きていたのか、山本沖子は。もとい、ご存命であられたのか（授賞式には娘さんが代理出席していた）。

昭和19年3月、三好達治は旧雄島村米ヶ脇森田家別墅に入り、5月萩原アイを迎えた。翌年2月、アイと離別。この三好の流寓隠棲を支えた村の青年たちの中に小野忠弘と畠中哲夫がいた。小野忠弘は三国で画業を続け、のちジャンクアート（廃品芸術）の先駆者として活躍した。畠中哲夫は早くに上京、三好の影響と反撥に悶えた。『詩人三好達治越前三国のころ』（花神社1984）がある。実兄が平澤貞二郎である。朝鮮で三好の旅行の世話をし、敗戦後米子に引き上げた則武三雄を、三好は三国に呼び寄せた。則武はのち福井に定住し、「地方主義」を標榜して自宅に北荘文庫を開き、多くの詩集の発行元となった。自らも『紙の本』（北荘文庫1964）『葱』（紫陽社1978）などがある。この則武の周旋で、一時三好の許に寄宿したのが山本沖子であっ



文学の門

た。三好の序詞をもらい『花の木の椅子』（創元社1947）で世に出たが、過度の期待の重圧から長い間詩作から遠ざかり、『朝のいのり』（文化出版局1979第4回現代詩女流賞）で復帰。しかし、私の頭からは遠ざかったままだった。アッ、にやっと戻れました。しかしこの項、以下略。

その5月16日の夜、別のホテルで開かれた第59回H氏賞受賞祝賀会。ここでも私は宴会要員、アレマアと言って参加した。受賞作は、中島悦子『マッチ売りの偽書』。H氏賞は優れた詩人（詩集発行三冊目まで）の詩集に送られる、日本現代詩人会の文学賞。旧三国町出身の実業家、平澤貞二郎の基金で1951年に創設された。平澤が名の公表を固持したので、頭文字Hを冠した賞となった。福井県出身では荒川洋治以来、久々の受賞。

「言葉を発生させることを発火といい、詩は反応速度をなんらかの方法で速めて強い発熱現象をひきおこさせることである」（序）、と中島は言うが、その詩の形式、内容をここで紹介するのは至難の業だ。その言葉の精神はさて置き、形だけを圧縮してみると次のようになろうか。その日も哲学者ヘラオはマッチを売っていた。蛍光灯を替えたら、明るくなった。魅力的な乳房は見せるに限る。肉食序詞。太宰治の「津軽」、越野格。眠るジャム。ひつじがさんびき。火曜日は休みです、新田塚の鯛夢。善玉コレステロール。命を、大切にしたい、労働なき富。爪が割れた。すべて切腹。地産地消。文庫の文、ゴミ捨て場の詩集。モエカス。私のは単なる悪意の人間業に過ぎないが、詩集には書き手ばかりでなく、マッチを擦るヘラオも必要だ。美代子、詩集を買いなさい、そして石を投げなさい。

荒川は中学から則武学校に通った。広部英



葱

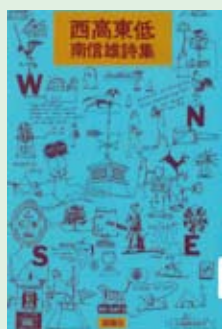
一、岡崎純もそこを出た。広部には『木の舟』（北荘文庫 1959）『苜蓿』（詩学社 1997 第 9 回富田碎花賞）『広部英一詩集』（思潮社 2000）などがある。惜しまれて物故した。岡崎には『重箱』（北荘文庫 1962）『岡崎純詩集』（土曜美術社 1991）などがあり、



苜蓿

岡崎純詩集

2008 年、惜しまれて長年務めた福井県詩人懇話会の代表を退いた。広部、岡崎、川上、そして南信雄の例の四人組で、1968 年に創刊したのが「木立ち」。南からは『西高東低』（紫陽社 1978）以来、詩集をもらい続けた。「ふるさと文学館」でちょっと一緒に仕事をし、ほとんどジャン友。酒もタバコもしないのに『南信雄全



西高東低

詩集』（能登出版・印刷部 1998）を遺して海に帰っていった。アア、弔辞になりつつある。

心機一転。「言葉への加虐者」川上の、「瀕死の言葉の群れが放つ臨終の美」（広部英一）なる『彼我考』（紫陽社 1978）が手許にある。恐らく蝦夷からの移住者への名刺代わり（当時の名刺自体も挟まっている）。以後、獅子吼川上からも『陽炎座』（土曜美術社 1998）『夕陽魂』（思潮社 2004）など多数もらった。近頃はまっすぐな詩語の品揃が気に掛かる。

死者や生者の縁を続ける。第 3 回「ふるさ



夕陽魂


自選詩画集「べと」から
「だんだんたんぼ」

と自費出版大賞」の優秀作、山田清吉『自選詩画集「べと」から「だんだんたんぼ」より』（福井新聞社 2008）は、既刊 6 冊から自選した詩を自ら毛筆で書き、水上勉の挿絵で知られる渡辺淳（おおい町）の画をそえたもの。新聞の投稿詩を中心に、選者新川和江の「菜園の土といっしょに書いた詩」の批評を頂いた森文子『ぼてさんのカニ』（花神社 2009）。里芋は煮転がしが一番か、田楽か。別にふるふき大根もある。だがこれからは料理の初心者では済まないだろう。北陸は南条、「木立ち」抒情派の一人、今村秀子の『山姥考』（書肆青樹社 2009）。衣領樹の下、可憐な山姥が死者ばかりか生者の衣を剥ぎながら詩集を売っている。そこへ川上から衣が流れて来た。福井の詩壇は花闇に沈む。そんな情景を思い浮かべながらこの詩集を読み終えた。



ぼてさんのカニ



山姥考

没前 5 年の私の講義もどきは、垂れ流しの挙句、ここで時間切れ、脱稿。急いで病院に行かねばならぬ。一路平安。再見、再見。

生命科学の専門書

附属図書館運営委員

定 清 直

さだ・きよなお

私達が学生の頃、大学教授による医学部専門基礎の講義には教科書がなかった、と書くと、やや言い過ぎかもしれないが、当時の講義は、最新の知識を網羅し、教科書よりも新しく、教授の学識が反映されたユニークなものだった。実際に、その内容は単一の教科書だけで理解することは困難であり、図書館に通って異なる教科書を並べて調べなければ理解できないものであった。その年の講義内容が教科書に全て載っているわけではない。今学んでいるのは現代の科学であり、さすがは大学の講義だと感嘆する一方、分厚いだけの古びた教科書は疲れて机の上で眠るときの枕や筋肉トレーニングにしか使えないなどと軽口を叩いたりもした。つまりは、「これさえあれば大丈夫」という教科書がない時代だった。

講義内容は時に教授のバイアスがかかり、スタンダードと言えないものもあったが、一方で更なる自己学習へと駆り立ててくれるような名講義もあった。自習するよりも講義に出席してエッセンスを教えてもらうだけでためになる、大学の講義とはそういうものである。私の場合、自分が興味を持っていたほんの一部の講義に限ってのことだったが、その一部の講義を必死で勉強したことこそ、現在の研究者人生の礎となっていることは確かである。

一方、自ら教科書を記された立派な教授もおられた。学生はその本を買って勉強すればよいことになる。その教授の年齢を計算してみると今の私とほぼ同年代、まだまだ自分自身の研究が忙しい年齢である。そんな時分に

教科書を書いたとなると、ご自身の研究は完全にストップしていたかもしれない、と愚考することもある。

幸い、生命科学系については、よい教科書や読み物がこの20年間に次々に出版された。**分子生物学の誕生—奇跡の年 1953 年—**（鈴木理著 秀潤社

ISBN4-87962-343-



分子生物学の誕生

1) は生命科学の歴史的な大発見を原著論文や詳しい解説を交えながら紹介した本で、私達が学生の頃、こんな本があったらと思われる優れた参考書である。

その後初学者を対象にした A5 サイズの小冊子がブームとなり、分野別に次々と刊行された。リファレンスがないため、総説というより読み物であるが、**がん・増殖・分化の演出家—チロシンキナーゼ**（浜口道成著 羊土社 ISBN4-946398-85-6）や、より一般的な新書として、**がん遺伝子の発見—がん解明の同時代史**（黒木登志夫著 中公新書 ISBN-10:4121012909）が出版され、これらの



がん・増殖・分化の演出家



がん遺伝子の発見

本は私達の研究分野において、実験のエピソードを交えたとても解りやすい入門書で、あたかも研究室で先生や先輩が語って聞かせてくれるような雰囲気のものである。教科書がなかった時代の私達にとって、優れた専門書に出会ったときの喜びはとても大きく、今でも度々読み返すことがある。是非、学生の皆さんにも一読をお勧めしたい。

現在、私が講義で扱う内容の参考書としては、新型インフルエンザ発生時に、国内の専門家から多くの本が出版された。教わる立場から教える立場となったが、原点を忘れずに、最新の知見を講義に反映させるよう心がけている。また、研究者の伝記（自叙伝）として、**遠き落日**（渡辺淳一著 角川文庫 ISBN4-04-130714-7, ISBN4-04-130715-5）、**我々の歩いて来た道—ある免疫学者の回想—**（石坂公成著 黙出版 ISBN4-900682-48-9）があり、彼らのエキサイティングな研究生活を隅々まで追体験出来るという点で興味深い。



遠き落日

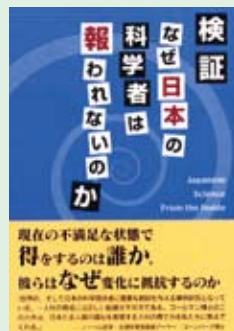


我々の歩いて来た道

大学院では、専門書のみならず修士と博士のキャリアパスについての参考書も必読であ

るが、書店に行けばその手の本は数多く出版されており、この紙面では割愛する。

大学ではなく研究所に勤務する科学者と組織との問題については、**検証 なぜ日本の科学者は報われないのか**（サミュエル・コールマン著 文一総合出版 ISBN4-8299-0065-2）が参考になった。これから研究者を目指す人たちに指針を与える上で、現状と将来性についてはよく知っておく必要があると思われる。研究者としてのキャリアを進めていく上で直接的な参考書としては、**アット・ザ・ヘルム—自分のラボをもつ日のために—**（キャシー・ベイカー著、メディカル・サイエンス・インターナショナル社 ISBN4-89592-357-6 C3047）が挙げられる。この本には多くの事柄が書かれているが、日本とアメリカの習慣の違いを知る上でも興味深い。将来PIを目指す方は必読である。



検証 なぜ日本の科学者は報われないのか



アット・ザ・ヘルム

以上、私の学生時代の教科書の話から専門書の紹介が中心となったが、専門外の多様な読書量の少なさに自戒を込めつつ、本稿を終えることにする。

失敗だらけの日本？

附属図書館運営委員

橋 本 明 弘

はしもと・あきひろ

しばらく前に書評を書くという義務を果たしたと思っていたら、最近再び書評の依頼を受けたので、「この前書きましたよ」と答えたところ、「それは既に2年前です。」と切り返されて、ついに観念。最近読んだ本の中から個人的に興味をひかれた幾つかを紹介することにします。最近何かと上層部の失敗が目立つように思える日本の組織について、いろいろと考えさせられる著書を選んだので上記のような題目にしました。

最初に紹介する本は、**「失敗の本質－日本軍の組織論的研究－」**です。20年ほど前に刊行されている戦史研究の著書ですが、きな臭い先の大戦を扱っているとは言え、旧陸海軍をひ



失敗の本質

とつの典型的な日本の組織と見做したときに、組織が陥る失敗の原因について比較検討した研究結果をまとめたものです。軍隊をひとつの目的に向けて構成された組織と見ると、現在の企業組織や官僚組織における意思決定や組織的行動に通じる点が多いのではないかと思います。反省する気配さえ感じられない現代の日本の大人たちに反感を持っている若い方にも、また、まじめに今の日本を反省しようとしている大人たちにもお薦めの本であると思います。

もっとも、事柄の本質は、個々の戦場における組織の失敗云々にあるのではなく、いかなる事態においても避けるべき悲惨な状態である戦争へと日本を導いていった、進むべき

方向の選択における国全体としての組織的誤りにあるのかもしれませんが。誤りの本質がどこにあったのかは、近現代史に疎く、右肩上がりの高度経済成長期の日本の中で育ってきた現代の大人世代には気にさえならない事柄のようですが、今、日本の様々な組織が機能不全を起こしているのではとも思える一因はその歴史に学ばない反省の無さに立っているとは言えないでしょうか？ここは一番、謙虚に歴史を紐解いて反省しようとするときに、助けになりそうな一書が**「重臣たちの昭和史」**で、昭和初期から太平洋戦争に至る当時の日本の中樞部が犯したさまざまな過ちをいろいろと教えてくれる本です。中でも、リーダーシップを取るべき人たちの理念、勇気や展望の無さという



重臣たちの昭和史

ものが、当時の国民の無知や世相と相俟って、信じられないような結論である無謀な戦争へと国を導いて行く有様は、何となく現代の世相を見るようで痛ましくさえあります。

現代の日本的組織の代表とも言える日本最大の航空会社を舞台に、主人公の組織の不当な扱いへの戦いとジャンボ機墜落の惨事を軸に、先の大戦により猛省を促されたはずの組織的失敗の原因となる組織の腐敗、特に、意思決定機関である上層部の**「失敗の本質」**を世に問うた**「沈まぬ太陽」**は、この際、映画よりも原作を読まれることをお薦めします。特に、ジャンボ機墜落の惨事は、読む者の胸

を悲しみで映像よりも深くえぐります。事故後の組織改革を目指して外部から迎えられた会長とともに懸命に働く主人公たちに対して、それに反対する既得権益を持つ旧体制の人々



沈まぬ太陽

の動きは、仮に短期的には合理性を主張できたとしても、長期的には、近衛文麿内閣をはじめとする昭和初期の日本政府と同じように誤った選択を導き出す動きであり、その結果が、結局昨今の破綻に結びついたのではとさえ思えるほどに、日本における官僚組織をはじめとする組織の“懲りなさ”を象徴しているのかもしれません。

歴史に学ばず反省をしないという特質を持つかとさえ思える近現代の日本的組織があらゆるところで制度疲労を起こし衰退期を迎えている今日、今後のこの国の進むべき進路に関心のある方には、サミュエル・ハンチントンの「文明の衝突」をお読みになることをお

薦めします。学術的な間違いなどいろいろと批判のある本ですが、1990年以降の世界における9つの文明圏のうち孤立した文明と考えられるわが国は、近隣諸国とも文化的つな

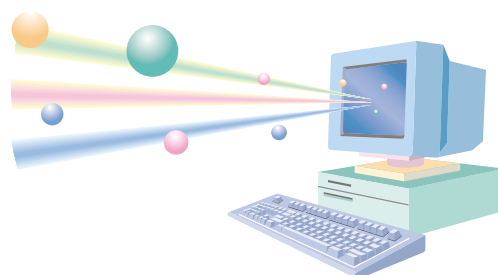


文明の衝突

がりを持たない孤立した国であるためにアジアにもなれず、かといって西欧にも同化することが出来ない国として描かれています。わが国の歴史は、この国が周囲の諸文明を融合させる力をかつて持ち、おそらく現在も隠し持っているかもしれないこと示唆してくれませんが、その力は現状のような状況ではなく、もっと適切な組織力が機能するときのみ有効なのでしょう。今後、文明間での争いが表面化すると予想される世界情勢の中で、文明圏をもたない孤立した文明とされるわが国の行く方に思いをはせるとき、若い世代によるこの国の屋台骨の建て直しが如何に急務であるかを実感させられるのではないのでしょうか。

二つの機関リポジトリ

学術情報課企画管理係



機関リポジトリとは？『機関リポジトリとは、研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステムである。』（ウィキペディアより）

わかりやすく言えば、大学等研究機関の教職員や学生が執筆した論文等（全文）を電子化しその執筆者が

所属する機関に設置されたサーバに蓄積してインターネットを介して公開するというシステムです。機関リポジトリは、Google, CiNii, JAIRO, OAIster など様々な検索エンジンに対応する（検索対象となる）機能を持っておりますので、自分の執筆した論文がより多くの研究者の目に触れることになります。

今全世界的に機関リポジトリは目を見張る勢いで普及してきており、日本では平成 17 年度では 19 機関だったものが、現在は 115 もの機関リポジトリ

から情報が発信されています。

福井大学では二つの機関リポジトリを立ち上げており、今回その紹介をいたします。

福井大学学術機関リポジトリ

福井大学では、平成 19 年 9 月に『福井大学学術機関リポジトリ』を立上げ、論文等の学術成果物の収集・蓄積・公開を行ってきております。当初は 353 件（紀要論文 279 件、雑誌等掲載論文 65 件、博士学位論文 9 件）だった登録論文数も、平成 22 年 2 月現在では 1,442 件（紀要論文 712 件、雑誌掲載論文 657 件、博士学位論文 36 件、研究成果報告書 37 件）まで登録論文数が増えております。

ただ、この登録数は決して誇れるような数字ではなく、他の同規模大学と比べてもまだまだ少ないのが現状です。各学部やセンター等で毎年発行している紀要論文は、発行する都度機関リポジトリに登録することができるようになったのですが、雑誌論文等についてはその情報入手がなかなか難しく、思うように登録ができていませんでした。

しかし、平成 21 年 4 月に、福井大学総合（業績）データベースと機関リポジトリとの連携システムを構築し、教員が総合データベースに論文等を登録する際に、その論文を機関リポジトリにも登録するかどうかの意思表示ができるようになりました。これにより、図書館は雑誌論文等の情報入手が容易となり、機関リポジトリに多くの雑誌論文等の登録が可能となったのです。

【福井大学学術機関リポジトリ ホームページ】

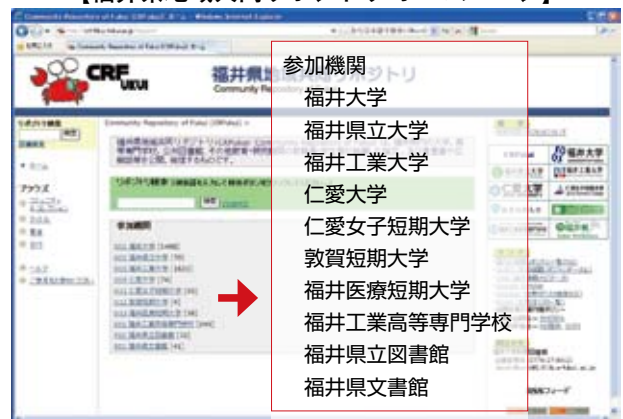


福井県地域共同リポジトリ

福井大学学術機関リポジトリは福井大学単独の機関リポジトリですが、福井県の他の様々な機関でも学術情報や地域独自の情報を豊富に保有しております。それらを発信すべく、平成 21 年 3 月に福井県の短大も含めた全 7 大学、高専、県立図書館、県文書館の計 10 機関の参加を得て、福井県の共同の機関リポジトリ『福井県地域共同リポジトリ』を立ち上げました。

機関リポジトリのサーバは福井大学に置きそれぞれの機関の担当者がそのサーバにアクセスして論文等を登録していく共同作業で運用しております（平成 22 年 2 月現在で、トータル 3,660 件の登録数があります。）。福井大学学術機関リポジトリは、学術的な論文のみを登録しておりますが、この福井県地域共同リポジトリは、学術的な論文だけではなく、貴重書、広報誌、その機関や地域の特徴あるものも登録するというコンセプトで、福井県の『知』となるような存在になることを目指しています。

【福井県地域共同リポジトリ ホームページ】



福井大学附属図書館では、この二つの機関リポジトリを維持管理していきつつ、今後のリポジトリの動向に目を向けていく必要があります。また、福井県地域共同リポジトリは、各参加機関への十分なサポート、勉強会を行うなどして登録物の拡充が図れるようにしていきたいと考えております。

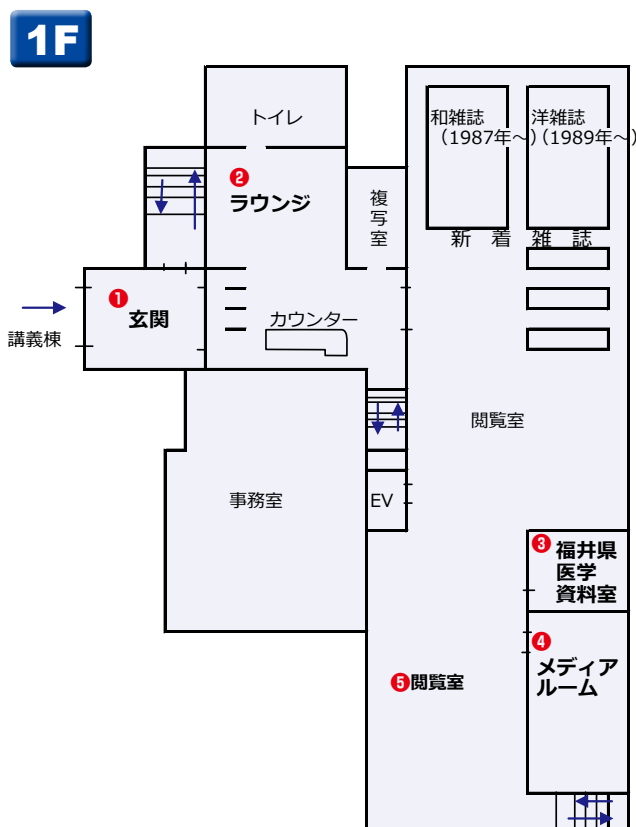
新しい医学図書館

増改築工事が終わり、リニューアルします

工事がはじまったのは、昨年11月ごろでした。6年生は卒業試験も半ばを過ぎた頃…。

開館しながらの増改築工事でしたので、利用者の皆様には騒音などで大変ご迷惑をおかけしました。その増改築工事を終え、医学図書館はこの4月にリニューアルします。学習の場を増やし、くつろいでいただけるスペースを以前よりも多く設けました。是非、新しくなった医学図書館を活用してください。

施設のどんなところが主に変わったかを以下に紹介します。



① 玄関の位置が変わりました。

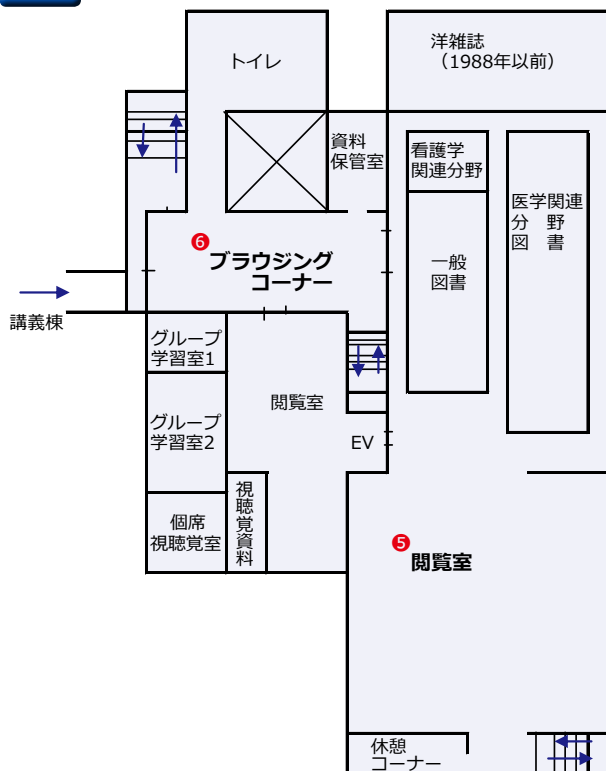
講義棟との渡り廊下の下あたりです。

② 1階検索コーナーだったエントランスの部分
を以前より広くし、コミュニケーションできる
スペース、検索コーナー、また展示するス
ペースを持つラウンジとしました。

③ 1階に、福井県の医学関係資料、また、本学
関係の資料を収集・保管でき、活用してい
たため福井県医学資料室を設けました。

④ メディアルームには検索用端末を置き、また、
情報コンセント環境を整備して、ノートパソ
コン（図書館の貸出用パソコンを御利用くだ
さい。）を使用できる環境にしました。また、
図書館主催の講習会等も開けるような場所と
して活用していきたいと考えています。

2F



⑤ 南側に閲覧室が増築されました。1 階と 2 階とも大幅に座席数が増えました。試験時期に席が少なく混雑していた状況が大幅に解消できるでしょう。2 階には勉強の合間に休憩できる場所も設けました。もう一点館内の閲覧室の特徴として、今まで、混在していた 4 人用・2 人用・1 人用の机を各部屋ごとにゾーニング分けをしました。

⑥ ブラウジングコーナーが少し広くなり、ゆったりとさせました。

そのほか、1 階のラウンジの北側にトイレを移動し、明るく余裕のあるトイレに改装し、障害者用のトイレも設置したり、一般利用ができていなかった既設のエレベーターを閲覧室側から使えるようにしました。また、南側階段壁面とエントランス横階段壁面に福井大学のキャンパスカラーである青を使用することにより、新しい医学図書館としてのイメージをつくりだしています。

新しくなった医学図書館には、医学・看護の学習の場、研究情報の基地、そして地域医療や患者さんのための情報提供の場として発展していくことをめざし、努力を重ねていきたいという思いがこめられています。



【医学図書館北側】



【医学図書館南側】

* 模型は Pelli Clarke Pelli Architects Japan, Inc. 提供

総合図書館

ブックハンティング

—学生による学生のための図書選定—

書店で実際に図書を手にとって
選定してもらいました。

◆実施日：平成 22 年 2 月 5 日（大学近隣書店にて）

◆参加者：学生 5 名



私が選んだ本

教育地域科学部 学校教育課程 2 年（匿名）

八朔の雪（みつつくし料理長帖）



非常に読みやすく面白い時代小説です。逆境に負けず、凜として生きる主人公・濡の姿は自然と涙を誘います。料理ごとに一話一話区切られており、話のテンポもちょうど良いです。また、時代小説といっても、現代とは違う文化等についてはきちんと作品の中で説明が加えられているので、初めて時代小説を読む人や、今まで時代小説を読みにくいと感じていた人も、気軽に手に取ってほしい一冊です。読んだ後、心が爽やかに明るくなる本です。

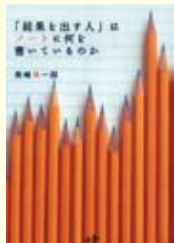
花散らしの雨（みつつくし料理長帖）



「八朔の雪」の続編です。前作でも濡は数々の厳しい試練を乗り越えてきましたが、今作では更に厳しい試練が濡を襲います。それでも、人に対する思いやりを決して失わない濡の姿には心打たれます。また、前作と比べて恋愛の要素が強くなっており、時代小説という枠にとらわれず、自然に楽しめる作品になっています。また、前作でもそうでしたが、巻末には作品に登場した料理のレシピが載っており、料理好きのあなたにもおすすめの一冊です。

教育地域科学部 学校教育課程 1 年 高田 慎也

「結果を出す人」はノートに何を書いているのか



この本は、仕事で結果を出す人が、ノートをどのように使っているのかについて書かれた本です。この本の内容を紹介すると、仕事に使うノートは 3 冊に分けるのが良いと書かれています。その 3 冊というのは、「メモノート」、「母艦ノート」、「スケジュールノート」です。「母艦ノート」は「メモノート」に書きとめたアイデアをふくらませるためのノートです。これらのノートを上手く連携させることで、仕事の効率を上げ結果を出すことにつながります。本書には、こうした 3 冊のノートの活用の仕方が具体的に記されています。また、ノートを使いやすくする文房具が写真で多数紹介されており、とても実用的な一冊になっています。

やる気の仕事学



やる気を持って仕事をするとは、いつもできることではないと思います。今やっている仕事や、これからやろうとしている仕事にやる気を持てないという人は、是非、この本を読んで、仕事について考えてみませんか。この本では、やる気を持って仕事をする秘訣を紹介しています。「やる気で仕事に取り組む大切さの考え方」＝「やる気の仕事学」、「仕

事の中で経験したところのやる気」＝「仕事のやる気学」に焦点を当てて書かれています。「仕事のやる気」が科学的に分析されています。この本は仕事をしている社会人に向けて書いた本ですが、学生へのメッセージなどもあり、私たち大学生にも大変参考になります。



医学と芸術 ―生命と愛の未来を探る

ーダ・ヴィンチ, 応挙, デミアン・ハーストー

古くから人は人間の体に興味を持ち、それを探ろうとしてきました。そして、人体への興味の高まりは、芸術にも表れ、古くから人間の体をモチーフにした作品が描かれてきました。人体をテーマにした作品を巡ることで、人が、今までどのようにして、「生と死」、そして「愛」と向き合ってきたかが分かります。現代では医学の発達により、遺伝子の解明や、脳科学が進展しました。これからは、「生と死」、「愛」の考え方が変わっていくのではないかと思います。本書は、こうした医学と芸術の両方の視点から人間の生きる、死ぬ、愛するというを作品の写真から、考えさせてくれます。是非一度、読んでみて下さい。



戦争 ―そのイメージ

この本はロバート・キャパが撮影した戦争の写真と彼自身の言葉がのせられている。ロバート・キャパは、ハンガリー生まれの報道写真家である。スペイン内戦で銃弾を受け倒れる兵士の瞬間をとらえた写真は、皆さんも一度は目にしたことがあるのではないだろうか。「戦争写真家」と言われたロバート・キャパが生涯にわたり、撮り続けた戦争の写真は、現代に生きる私たちに何らかの強いメッセージを与えてくれる。それは、命の重さであったり、戦争の悲惨さであったり、そして何より、彼自身の戦争に対しての憎悪である。

工学研究科 システム設計工学専攻1年 土田 隼之

読んでいない本について堂々と語る方法



『知ったかぶりをするための本』の対極に位置する本です。アドラーの『本を読む本』が、実際に本を読む方法について述べているのに対して、これは『小説の中から特定の要素・場面を抽出して、国家間や時代間の文化的差異を論じる』本的一种です。ウンベルト・エーコの『薔薇の名前』・バルザックの『幻滅』など、『「読んだことの無い本」というのが主要なトピックになる本』や『流し読みしかした事が無くても本について述べる』批評家ポール・ヴァレリーや記憶障害のあったミシェル・ド・モンテーニュ（読んだ内容を忘れてしまえば、読んでいないのと同じ）を通して様々な『「読んだ事の無い本」とのあり方』について考えていきます。『われわれが話題にする書物は、「現実の」書物とはほとんど関係がない。それは多くの場合（遮蔽幕としての書物（記憶の中の書物のイメージ））でしかなく、それらは記憶である以上、フロイトが言うように無意識的な改竄・忘却がされ得る不安定な物であるわけです。著者は『読書の過剰は創造性を奪う』と述べているのですが、ブルーストなどの作品を読んだ事の有る方がより楽しめます。主題となる小説は背景も含め詳しく説明がされているので、それらを読んだ事が無くても大丈夫です。

大学教授のように小説を読む方法



この本ではシェイクスピア・ギリシャ神話・聖書などが、どのように現在及び過去の物語の骨格になっているかについて述べられています。例えば、『エデンの東』という名前の小説があります。「エデンの東」は旧約聖書でアダムとイブの子供のカインが弟であるアベルを嫉妬により殺してしまった後に追放される場所であり、その話を知っていれば、この小説をより深く理解する事が出来るわけです。この本では多くの具体例を挙げて、その小説や映画がどのように過去の作品の影響を受けているのか、過去の作品を踏まえると一見何気ないシーンがどのように解釈出来るかについての本なので、扱われているTSエリオットやジェイムズ・ジョイス等の作品を知っていればより楽しむことができます。知ってなくても大丈夫ですが、また、『エディプスコンプレックス』などのフロイト・ユング的な概念についても知る事が出来ます。多くの作品が紹介されていますので、モームの『読書案内』のようにも使える本です。

